

## 祝 辞

県立新潟商業高校の令和4年度の入学式にあたり、同窓会を代表してお祝いと激励の言葉を述べさせていただきます。

今日の良き日を祝福するかのように信濃湖畔の桜のつぼみもほころび始めました。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、保護者の皆様にはわが子の晴れやかな姿に感慨ひとしおのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

新入生の皆さんは、新型コロナウイルスと高校受検の2つの試練に耐えて希望の春を勝ち取りました。しかし、試練はまだまだ続きます。これから始まる高校生活もまた平坦な道のりではないようです。

ご承知のようにコロナ禍は3年目に入ってなお収束の見通しがありません。しかも、2月に始まったロシアのウクライナ侵攻が核への恐怖と共に、社会への影響が私たちの日常生活にも先行き不安な影を落としています。

この4月1日から成人となる年齢を20歳から18歳に引き下げる民法改正が施行されました。少子高齢化が進む中で、若者が早くから経済活動に参加することによって、社会の活性化へ期待がかかっています。この期待に忘える学び舎こそ新潟商業です。皆さんは今、伝統校のパワーを追い風に、在学中に迎える18歳成人へのスタートです。

私達の母校の歴史は古く、明治16年(1883年)11月に開校した「北越興商会付属新潟商業学校」に遡ります。興商会は、今の商工会議所であり、商業学校としては東京、神戸、岡山、大阪、横浜に続く全国6番目の開校です。今年で139年、来年には節目の「創立140周年」を迎えます。

長い鎖国から開国に転じたわが国にとって、近代国家を担う世界を意識した人材育成が急務でした。とりわけ、日本海側唯一の開港場となった新潟では、政財界挙げての興商会と商業学校の実現でした。

開港の気風「進取の精神(こころ)」を胸に創立以来の卒業生は3万6千人にのびります。新商生の誇りは「文武両道」にあります。先輩達は不屈の「葦原魂」で県の内外、世界へと活躍しております。

今年校歌が大正11(1922年)年に制定されてから100年です。全国に知られる新潟県人コンビの相馬御風作詞、大和田愛羅作曲です。「進取の精神」、「葦原魂」の心が歌詞に織り込まれ、つらい時に口ずさめば勇気が湧いてきます。素晴らしい校歌を皆さんも永く記憶にとどめて欲しいと思います。

人間関係を断ち切るコロナ禍や大災害の多発で人と人の絆が強く求められております。皆さんは、これからの高校生活で授業や部活、学校行事などで新たな出会いを大切にしてください。

厳しく変化する国内外の情勢にも関心を持ち、皆さんが夢に向かって充実した高校生活となりますようお祈りします。

結びに、コロナ禍への対応に追われながら、在校生のために献身的に指導されておられる仲野校長をはじめ教職員の皆様に深く感謝申し上げます。

令和4年4月6日

葦原同窓会長 高橋 道映